

「でんけん」って何？

川越の重要伝統的建造物群保存地区の歩み

「でんけん」は、「伝統的建造物群保存地区」の略称で「伝建」とも書きます。蔵造りの町並みのような、歴史的な建物がまとまりを持つ地区です。

川越の「でんけん」が、国の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に選定されたのは平成11年12月1日、今年で20周年を迎えます。

伝統的建造物群保存地区とは

伝統的建造物群保存地区は、歴史的な町並みを後世に伝えるため、昭和50年の文化財保護法の改正によって生まれた制度です。

この制度の特徴は、個々の建物ではなく、地区を指定して建物のまとまりとその一帯を保存する点にあります。その中で特に価値の高い地区が、国から重伝建に選定されます。現在、京都市や金沢市など、全国の118地区が重伝建として選定されています。

川越の「でんけん」

右の地図は、川越の「でんけん」を示したものです。北は札の辻交差点から、南の仲町交差点にかけての範囲となります。

この地区は、すでに江戸時代から城下町として最も栄えた所でした。明治26年(1893)に起きた大火事は、時の鐘をはじめ多くの建物を焼失させました。川越の豪商たちは、火事に耐えた蔵造りの建物を競うかのように建てました。

戦後になり、やがてにぎわいの中心がこの地区から川越駅近くへ移っていきます。昭和50年ごろの一番街は、休日の日中でも、歩く人の姿はあまり見られない状況だったといえます。

しかし、昭和62年に川越一番街商業協同組合を中心に「町並み委員会」の発足や、平成4年の無電柱化など、歴史的な町並みを生かしたまちづくりへの動きが、市民と行政との間で活発になります。

そして平成11年、市が指定した地区が、国の重伝建に選定されました。川越の「でんけん」内では、歴史的な町並みに合わせた外観とすることで、さらに歴史的な魅力が増しました。

川越町並み委員会と「でんけん」

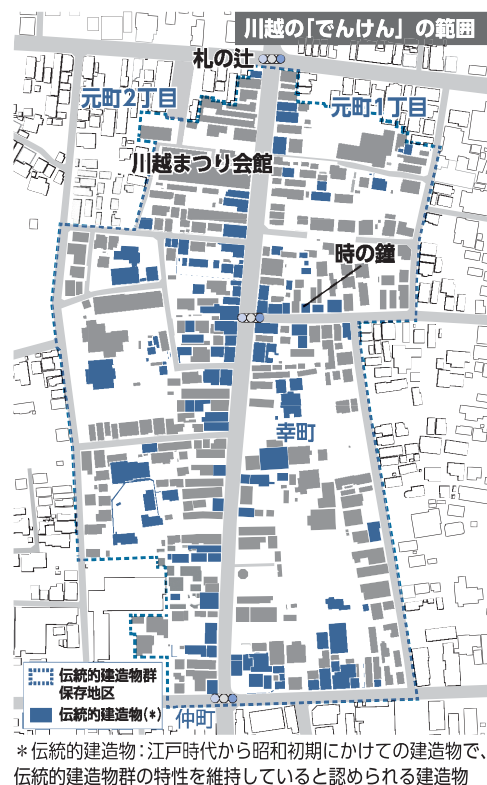
多くの人たちの努力で、川越の「でんけん」は現在のように

にたくさんの人を迎えるまちへと変わりました。商店街の一組織だった「町並み委員会」は、平成21年に自治会などを含めた地域の組織「川越町並み委員会」へと発展していきました。

そして、これからも

「町並みは一人一人、一つ一つの行為が相乗効果となってつくられるものです。建物ばかりではなく、緑・門塀・看板類・照明や道のつくりを含めて、様々な主体がパートナーとなってはじめて、川越固有の歴史的風致を守り育て、また、そのまちづくりの意識を共有することによって町並みの魅力も向上し、川越に住んでいることの誇りと価値を高めるものと考えます」。これは、川越町並み委員会の昨年度の活動報告にある文章で、「でんけん」を守っていくための思いが伝わっています。

重伝建に選定されて20年、時代の変化を受け入れながら、町並みは、住む方や商売をする方など関わる皆さんの手によって守られてきました。令和の時代も、地区の皆さんによって活動が受け継がれ、川越の「でんけん」の魅力がさらに増していくことでしょう。



委員会に携わる2人にお話を伺いました

川越町並み委員会に携わって



「でんけん」内の陶器店で生まれ育ち、蔵と共に歩んできました

川越町並み委員会委員長
はら ともゆき
原 知之さん

大学卒業後、会社勤めの後、昭和58年に生まれ育った店に戻りました。当時、観光客はほとんど見掛けませんでした。ただ、週末に時々リュックを背負った方がいて、後で知ったのですが、蔵造りや寺社を巡っていたようです。その当時、蔵や寺社の価値が分かっていなかったし、気付いていなかったと思います。

●委員長として

委員長になって2年になります。委員それぞれが対等な立場で「でんけん」の町並みを協議し合う場であると思っています。毎月さまざまな案件がありますが、特に店舗ののれん、看板に関する案件が多いです。厳しく規制をするわけではなく、一定のルールの中で幅を持たせて対応していきたいと思っています。私は商人であるため、建築など専門的なことは詳しくないので、建築家の委員の意見はとても参考になります。

●これからの「でんけん」

委員会は、商店街から独立したものになっているのですが、いまだに商店街の組織だと思われています。地区内の皆さんに委員会をもっと認知してもらうとともに、地区内のルールを守っていく組織ということを知ってもらいたいと思います。今後は、空き店舗による衰退を避け、地元に愛されるお店が増えてくれるといいですね。



伝統的建造物群保存地区保存審議会の委員も務めています

元町1丁目自治会長
すが けん
須賀 憲さん

生まれも育ちも元町1丁目で、委員会に関わるようになったのは、自治会の副会長になった平成20年からです。委員会に携わって、皆さんが昔からの建物を生かして、自分たちのまちを残していきたいという思いの強さを感じました。

●より良いまちへの協議

委員会での協議は、建物でも、看板でも、良い物にしていこうという各委員の思いが伝わってきます。建築家も専門的な観点から、意見を出してくれます。その結果、商店街や地区の皆さんの協力があって、景観が保たれていると思います。

最近では、新規の出店に関して、いろいろと細かいところまで協議したことが印象に残っています。

●これからの「でんけん」

自治会を超えて、まちを一つにしようというのが「川越町並み委員会」だと思います。「でんけん」内に住んでいる人や商売をしている人にとっては決まりごとがあり、大変なこともあります。今後も地区と行政がうまく連携を取って町並みを守っていければいいと思います。

川越の「でんけん」の歩み

西暦	出来事
1457	上杉村朝の命によって太田道真・道灌が河越城を築城
1792	土蔵造りの「大沢家住宅」(国重要文化財)が建てられる
1893	明治の川越大火(当時の川越町の3分の1以上が焼失) *この大火後の復興にあたり、江戸文化の影響を受けていた川越商人は、防火建築である土蔵造りを採用し、蔵造りの町並みが形成される。
1975	文化財保護法に伝統的建造物群保存地区制度創設 伝統的建造物群保存対策調査
1981	蔵造り商家16件を市指定文化財に指定
1983	「川越蔵の会」発足
1985	川越一番街商店街活性化モデル事業調査(コミュニティマート構想)
1987	「町並み委員会」発足
1988	町並み委員会が「町づくり規範」を策定
1989	埼玉県内初の景観条例となる川越市都市景観条例施行(旧条例)
1992	一番街通りの電線地中化事業完了
1993	「十カ町会」発足
1997	十カ町会が市に伝建地区指定の要望書提出
1998	川越市伝統的建造物群保存地区保存条例制定

1999	重要伝統的建造物群保存地区選定(川越市川越伝統的建造物群保存地区及び中央通り線の縮小変更の都市計画決定) 川越一番街蔵造りの町並みがグッドデザイン賞特別賞「アーバンデザイン賞」受賞
2001	川越市川越伝統的建造物群保存地区防災計画策定
2003	川越まつり会館開館
2004	川越十カ町地区都市景観形成地域施行
2005	十カ町会がまちづくり月間国土交通大臣表彰を受賞
2007	一番街歩道整備、街路灯新設
2009	町並み委員会が伝建地区保存団体として「川越町並み委員会」を再発足
2011	川越市歴史的風致維持向上計画認定(歴史まちづくり法)
2013	川越町並み委員会がまちづくり月間国土交通大臣表彰を受賞
2015	川越町並み委員会を都市景観推進団体に指定
2016	「川越氷川祭の山車行事」がユネスコの無形文化遺産に登録
2017	川越市川越伝統的建造物群保存地区防災計画改定 川越町並み委員会発足30周年 川越町並み委員会が地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰を受賞 時の鐘耐震化事業完了
2019	重要伝統的建造物群保存地区選定20周年